

学校だより



SINCE 1874

岩内町立岩内東小学校

東風

学校教育目標『明るく伸びる子』

【具体目標】

○考える子 ○助け合う子 ○やりぬく子
○じょうぶな子

月
日
()
日直

TEL0135-62-0246 平成30年10月31日発行

第8号

10月

自分事として



岩内東小学校長 中田 亨

気 まぐれな秋の空模様に翻弄されながらも深まりゆく季節の豊かさと厳しさを感じるこの頃です。そろそろ冬に向けての準備も始まっているのではないのでしょうか。今年は9月に京都の小学校でインフルエンザによる学級閉鎖がありました。例年より1か月ほど早く感染が報告されていますので注意が必要です。季節に応じた服装や雨天時の雨具の携行、汗の処理などを子供自らができるように日頃から意識させ習慣化させていただきますようお願いいたします。

寒 さが一段と身に染みる季節になってきていますが、胆振東部地震で大きな被害を受けた厚真町では未だに不自由な生活を余儀なくされている方が多くいらっしゃるようです。実は今月に入ってから厚真町のボランティア活動に参加させていただいておりますが、町中にまだ大地震による爪痕が残されており、仮設住宅があちらこちらで建設中という状況です。

ボ ランティア活動は朝9時から始まります。ボランティアセンターに集合したあとトラックの運転と助手、ごみの積み下ろし作業員、合わせて6人でチームを組み、割り当てられたご家庭へスマ木で場所を確かめながら向かいます。到着後は家や倉庫、小屋の中の片づけとごみの分別、運搬を繰り返し、午後3時をめぐり作業を進めていきます。当然集まったボランティアの方々の多くは初対面ですが、同じ目的を共有しているために、あっという間に団結して手際よく作業が進んでいきます。被災された方の表情も徐々に和らいでいって、いつのまにか一つの家族のような雰囲気になっていきます。作業が終わると、ボランティアセンターに戻って借りていた物を返却し、簡単な報告書を提出して解散していくのですが、初めて会った人たちとはいえ同じ目的で同じ作業を一日中繰り返している中で仲間意識が芽生え、解散した後はちょっとした喪失感を感じます。一つの目的に向かって活動するということはどういうことなんだなと実感しているところです。テレビやインターネット、新聞等では伝わることのない感覚です。

と ころで、話は変わりますが、岩内町ではコミュニティースクールという事業が進められています。先日この制度を導入している三笠市で全国大会が開催されたので参加してきましたが、簡単に言うと、子供たちの教育を学校任せにせず、地域みんなで取り組んでいこうという考え方です。今も、本校では読み聞かせや、図書ボランティア、運動会や学芸会のバザー、地域の施設の活用などで多くの方々に子どもたちの教育に携わっていただいておりますが、学校中心ではなく、学校運営協議会という組織を立ち上げて、教育委員会が中心となり学校職員以外の方がコーディネーターとなって、子供たちを地域で育てていくという仕組みです。実際に取り組むを進めて7年目を迎えた三笠市の子供たちのビデオレターが紹介されましたが、中学生が、瞳を輝かせて、「この町は、地域の大人の人たちが子供たちのために力を尽くし、声をかけ見守ってくれています。そのおかげで私たちは毎日安心して学校に通っています。この町に生まれて本当に良かったと感じています。」という思いを自分の言葉で心から語っているのがよく伝わってきました。

前 述のボランティア活動の精神と相通ずる思いがあるのではないかと感じています。子供たち一人一人のために地域の人たちが自分事として捉え、それぞれができることを考えて無償の愛情を注いでいく。そういう活動は途切れることなく受け継がれながら継続していくものだと思います。そのような取組がこれから段階的に進められていくということを心にとめておいていただき、今後も学校へたくさんの方々に足を運んでいただきたいと考えております。

